

郡山市の「屋内こどもの遊び場」は、未来のまちづくりの担い手である子どもたちの健やかな育成を図り、その福祉の増進に寄与するため、必要不可欠な場所であると考えております。

市内には、郡山市子ども総合支援センター（ニコニコ子ども館）や郡山市元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）など、各所に屋内遊び場を設置しているところではありますが、近年の少子化による利用の減少や、施設の老朽化に伴う維持管理上の問題など、課題も多い現状となっております。

このような状況を踏まえ、市民の皆さまの「屋内こどもの遊び場」に対する意識と実態を把握し、今後の取り組みに向けて参考にさせていただくため、アンケートを実施しました。その結果についてお知らせします。

（子育て給付課）

【調査結果】

- 調査期間 2025年5月19日(月)～5月28日(水) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を返信
- モニター数 427名 (男性 185名 女性 241名 不明1名)
- 回答者数 390名 (男性 166名 女性 223名 不明1名)
- 回答率 91.3%

【対象施設】

- 子ども総合支援センター（ニコニコ子ども館）
- 元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）
- カルチャーパーク屋内子どもの遊び場
- 大槻公園体験学習施設
- 八山田子ども体験学習施設

【分析】

《回答者内訳（人）》

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	全体
男性	3	4	12	30	40	35	27	15	166
女性	7	7	29	65	62	41	11	1	223
不明		1							1
合計	10	12	41	95	102	76	38	16	390

《第1章 認知度と利用状況》

- ・ 認知度及び利用実績はいずれも多い順から「元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）」、「子ども総合支援センター（ニコニコ子ども館）」、「カルチャーパーク屋内子どもの遊び場」、「大槻公園体験学習施設」、「八山田子ども公園体験学習施設」となっている。
- ・ 利用したきっかけは「家族、友人などから勧められて」が最も多く57.7%で、利用頻度としては、「年に数回程度」が最も多く58.5%であった。
- ・ 利用して良かった点としては、「遊ぶスペースが十分であった」や「遊具が充実していた」と回答した方が60%を超えているが、悪かった点として施設の混雑緩和に係る要望についての回答が見られた。

《第2章 遊び場のニーズ》

- ・遊び場選択において重要視している点については、「ケガをせず思い切り遊べること」や「猛暑や大雨などの天候に左右されないで遊べること（全天候型）」の回答が多かった。
- ・放射線への不安については、「それほど不安がない」との回答が55.4%であり、全体的に放射線への不安は少ない傾向である一方、一部不安がある回答もあったことから、未だ放射線への不安が完全に払拭された状況には無い傾向が見られた。
- ・本市に必要な遊び場として、屋内外ともにニーズの高い回答が見られたが、単なる遊び場ではなく、社会的学習が一体となった（複合型）施設も必要と考える回答が見られた。

《第3章 今後の遊び場の在り方》

- ・施設の有料化について、一人当たりの料金に対する回答はいずれの施設においても「100円以下」とすべきとの回答が一番多かった。
- ・市外在住者の料金について、「高額にすべき」が40.3%、「同額にすべき」が33.1%、「どちらとも言えない」が26.7%であり、高額にすべきとの回答が一番多かったところではあるが、全体的には意見が分かれる傾向が見られた。
- ・開館時間や休館日の変更については、現在の在り方に対する変更はあまり望まない傾向が見られたものの、休館日の設定については、「毎週平日1日～2日（月4～10日程度）」が妥当であるとの回答が45.1%と最も多い回答であった。
- ・今後の遊び場全体をどうすべきかについては、「他施設との統合を考えるべき」との回答をした方が47.4%と最も多かった。

《第4章 その他》

- ・屋内子どもの遊び場に関する全体的なことや、料金・休館日の設定に関することなど自由意見として多様な回答が得られた。

【考察】

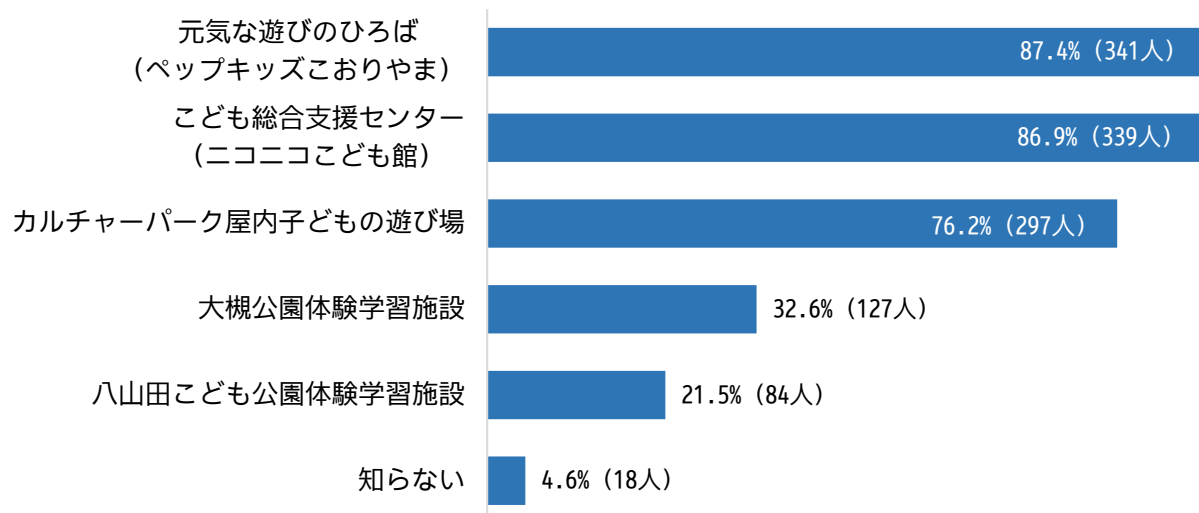
- ・施設の認知度や利用実績については、施設によって違いがあり、施設規模の違いや施設名の愛称の有無による認知度の違い等、様々な要因が考えられるが、いずれの施設もさらに認知度が高まるような対策が必要である。
- ・利用したきっかけとしてウェブサイトやSNSによるものであったとする回答が少数であったことから、今後これらの情報発信を強化し、施設の認知度や利用実績に繋げる必要がある。
- ・遊び場のニーズとしては、こども達がケガをせず思い切り遊べることや天候等を気にせず遊べることを望む回答が多いことや、放射線の影響に対する不安も払拭されていないことからすれば、屋内遊び場のニーズは依然として高いと判断できる。
- ・今後の遊び場の在り方として、有料化については100円以下とする回答が多かったことから、維持管理に係る財源確保を図るため、有料化を含めた在り方についても検討する必要がある。
- ・市外在住者の料金差別化については、意見が分かれたところであるが、それぞれのメリットデメリットや広域圏利用の考え方も含めて検討する必要がある。
- ・開館時間や休館日の変更についても大きな変更までは望まれていない傾向にあるが、利用実態に応じた設定をしていく必要がある。
- ・遊び場全体の考え方として、他施設との統合を考えるべきとの回答が多かったことから、現施設を単に継続するだけでなく、他施設における空きスペース等を屋内遊び場として活用できるかどうかについても検討していく必要がある。

※複数回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。
したがって、すべての比率を合計すると100.0%を超える場合があります。

第1章 認知度と利用状況

問1 屋内こどもの遊び場について、知っている施設はどこですか？（複数回答可）

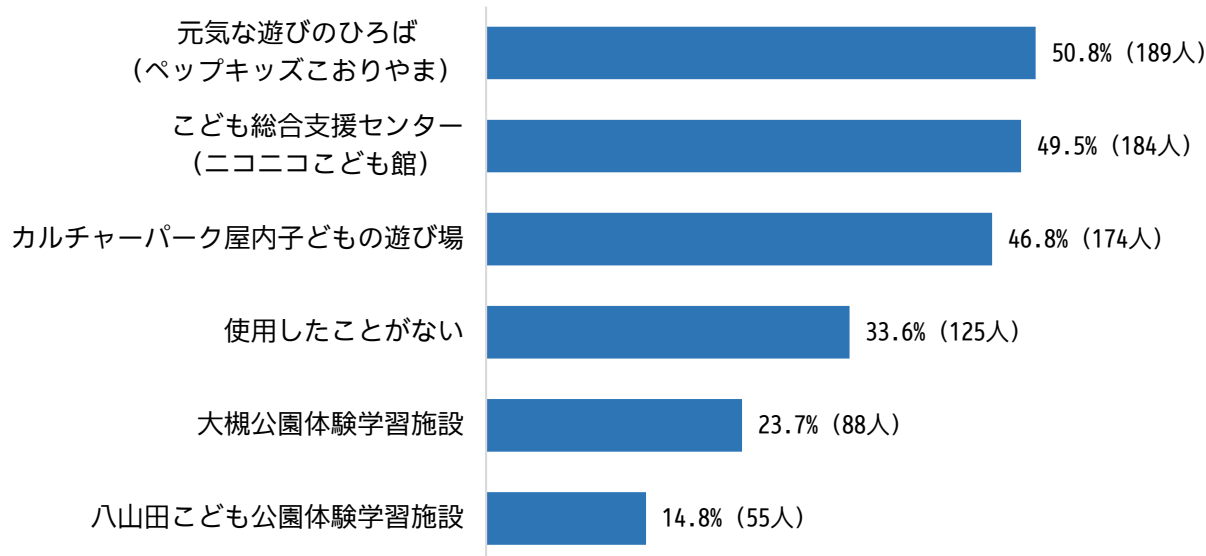
（回答者：390人）



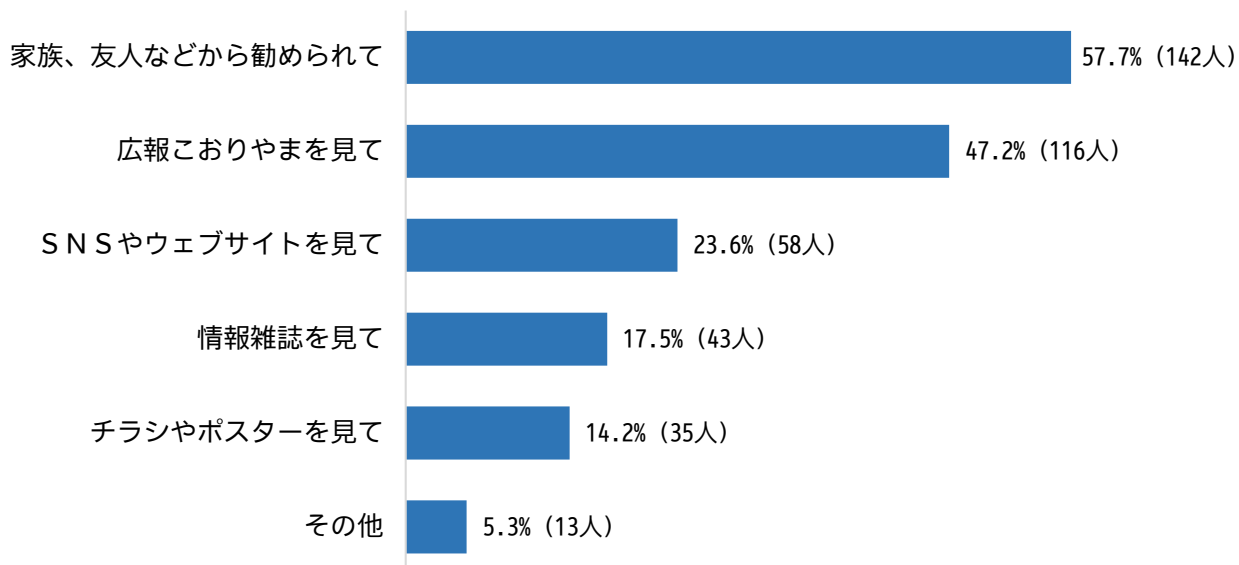
「元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）」や「こども総合支援センター（ニコニコこども館）」についての認知はいずれも80%を超えており、次いで「カルチャーパーク屋内こどもの遊び場」が76.2%であった。「大槻公園体験学習施設」や「八山田こども公園体験学習施設」については、認知度が高いとは言えず、施設によって認知度の違いが見られた。

問2 屋内こどもの遊び場について、遊びを目的に実際に利用したことがある施設はどこですか？（複数回答可）

（回答者：372人）



「元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）」、「こども総合支援センター（ニコニコこども館）」「カルチャーパーク屋内こどもの遊び場」においては40%～50%の方が実際に利用しており、「大槻公園体験学習施設」や「八山田こども公園体験学習施設」については、10%～20%の利用であった。これについては、認知度に応じた利用実績となっている。



《その他の主な意見》

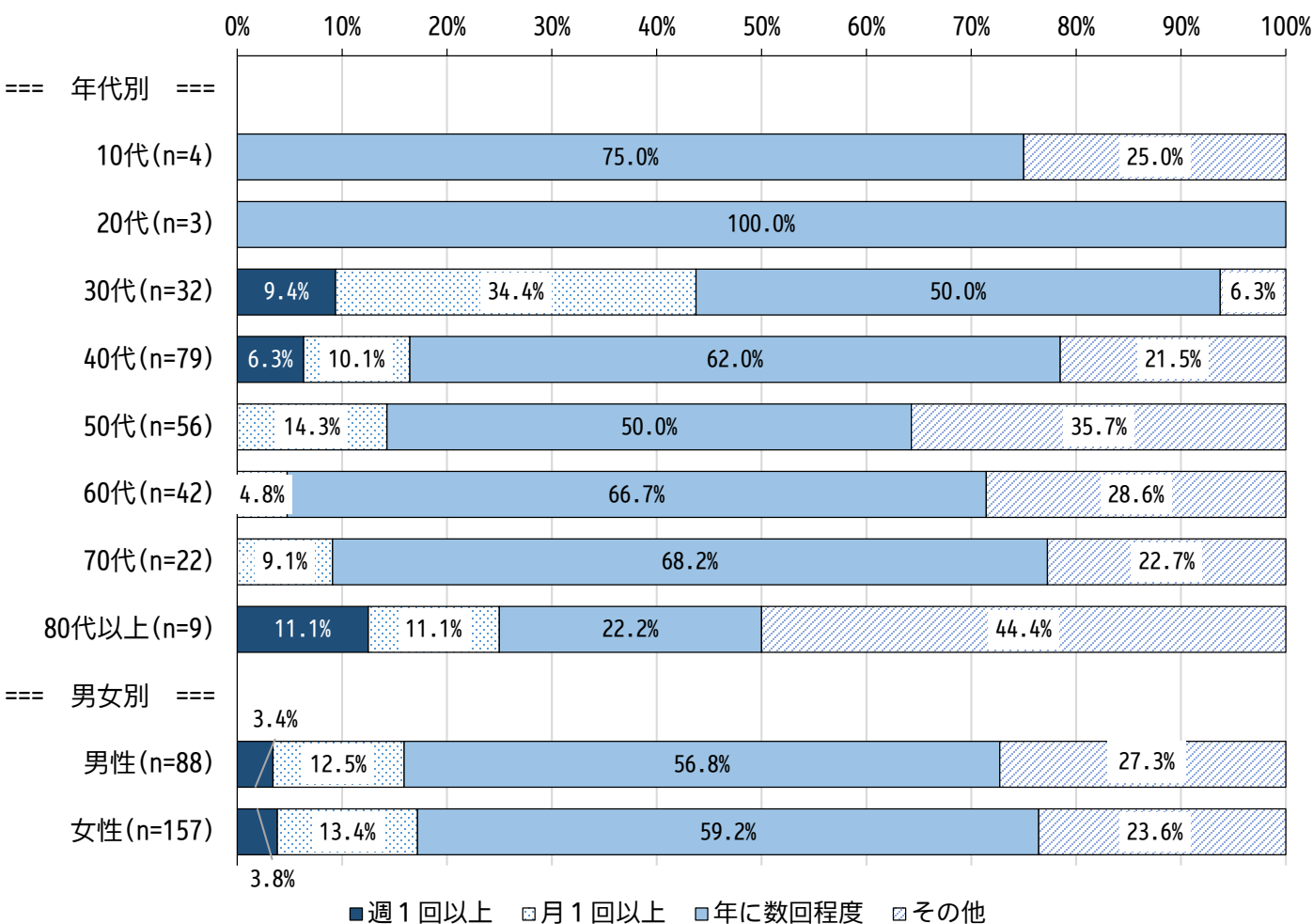
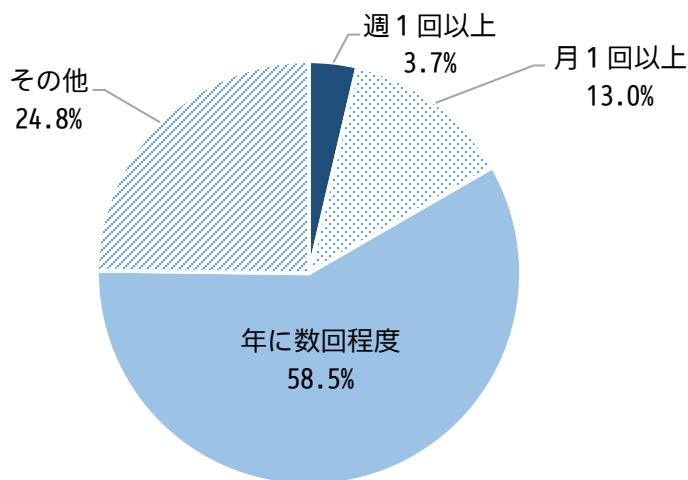
- ・テレビを見て
- ・ボランティア活動を通じて
- ・近所であったため

利用したきっかけについては、「家族、友人などから勧められて」が57.7%と最も高かった。情報媒体としては、「広報こおりやまを見て」が47.2%となっていることから、広報紙の認知度が高いと言える。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
 ※棒グラフのn=〇〇は回答者数を示します。

問4 屋内こどもの遊び場の利用頻度はどのくらいですか？（1つ選択）

（回答者：246人）



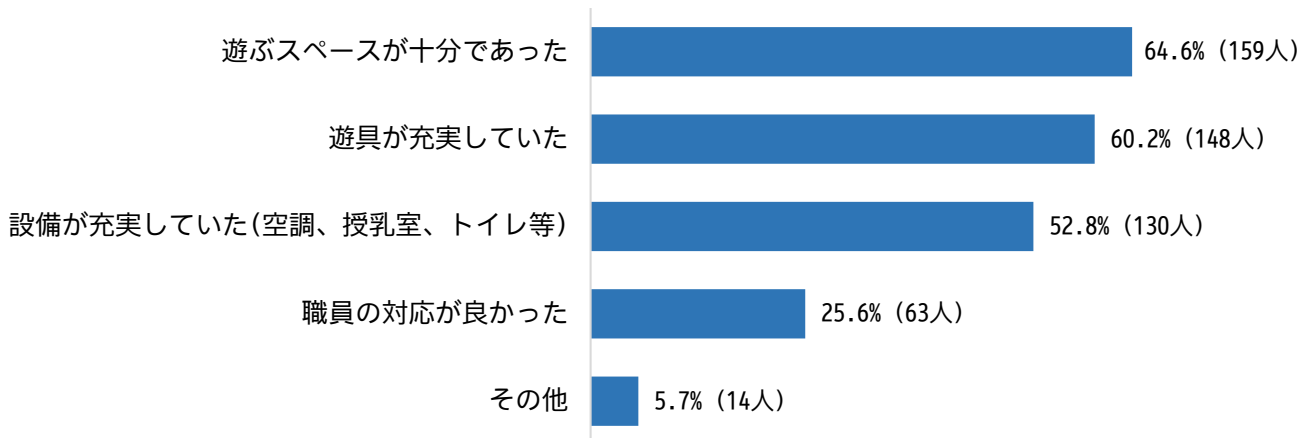
《その他の主な意見》

- ・現在は子どもが大きくなったので利用していない
- ・孫が帰省した時に利用する程度
- ・友人家族の付き合いで行った事がある程度

施設の利用頻度としては、「年に数回程度」が58.5%として最も高く、次いで「月1回以上」が13.0%であった。30代では「週1回以上」と「月1回以上」と回答した方を合わせると40%以上で、他の年代に比べ利用頻度が高い傾向であった。男女比としては同程度であった。

問5 屋内こどもの遊び場を使用して良かった点は何ですか？（複数回答可）

（回答者：246人）



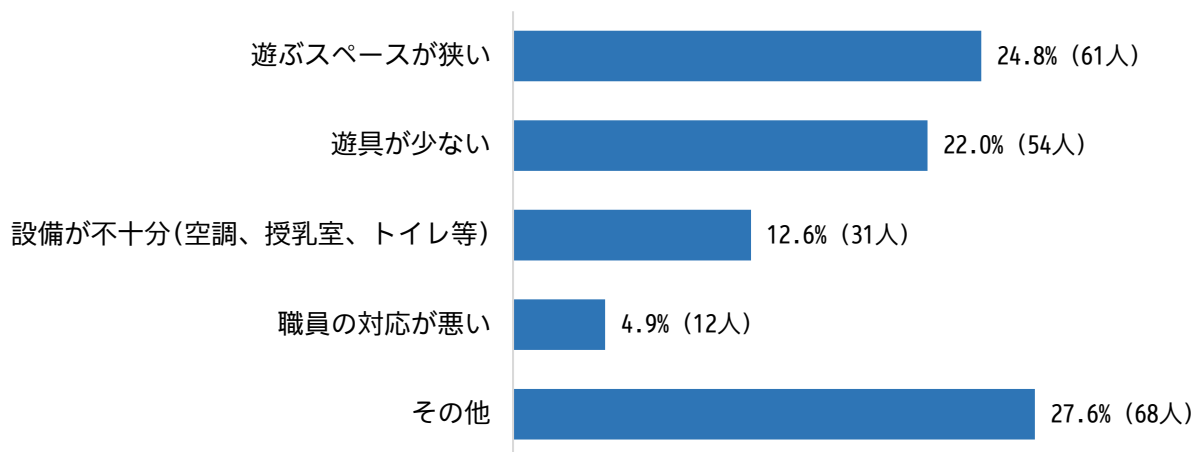
《その他の主な意見》

- ・天候に左右されないで、元気に楽しく遊べる場所
- ・無料の施設が多かった
- ・子供が喜んでいました

良かった点としては、「遊ぶスペースが十分であった」や「遊具が充実していた」との回答が60%を超えており、施設のスペースや遊具に対して良かったとする回答が多かった。

問6 屋内こどもの遊び場を使用して悪かった点（改善して欲しい点）は何ですか？（複数回答可）

（回答者：246人）



《その他の主な意見》

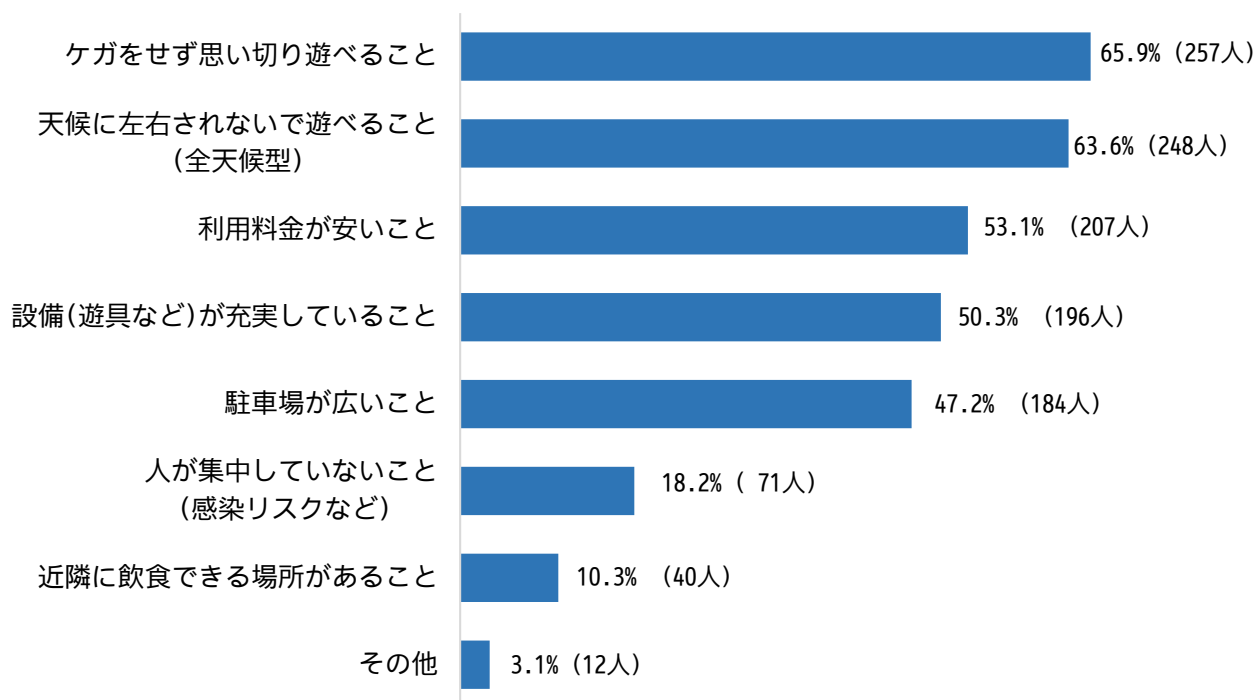
- ・休みの日や雨の日は利用が集中してしまうので混んでいる
- ・場所によって駐車場がない
- ・小学生が遊んでいる所で、幼児の子どもを遊ばせるのは怖い（ぶつかってケガなど）
- ・ペップキッズの整理券がすぐ無くなる
- ・カルチャーパーク屋内は夏はすごく暑い

悪かった点（改善して欲しい点）としては「遊ぶスペースが狭い」や「遊具が少ない」という回答も多いが、一番多かったのが「その他」の27.6%であり、内容としては、「休日等において混雑していること」や「駐車場が少ないこと」など、混雑緩和に係る要望事項についての回答が多かった。

第2章 遊び場のニーズ

問7 こどもの遊ぶ場所を選択する際、重視していること、または重視すべきだと考える点は
何ですか？（3つまで選択可）

（回答者：390人）



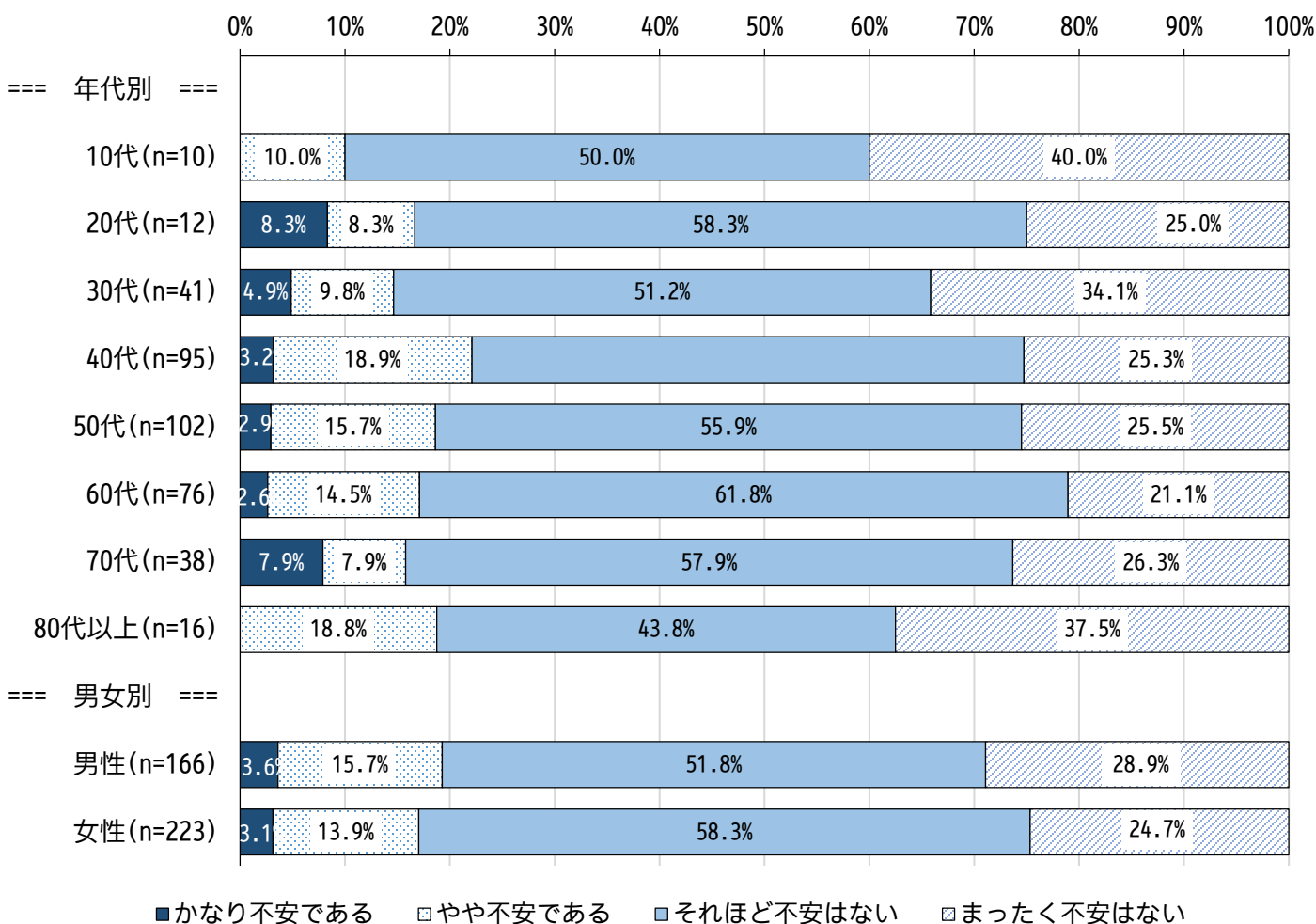
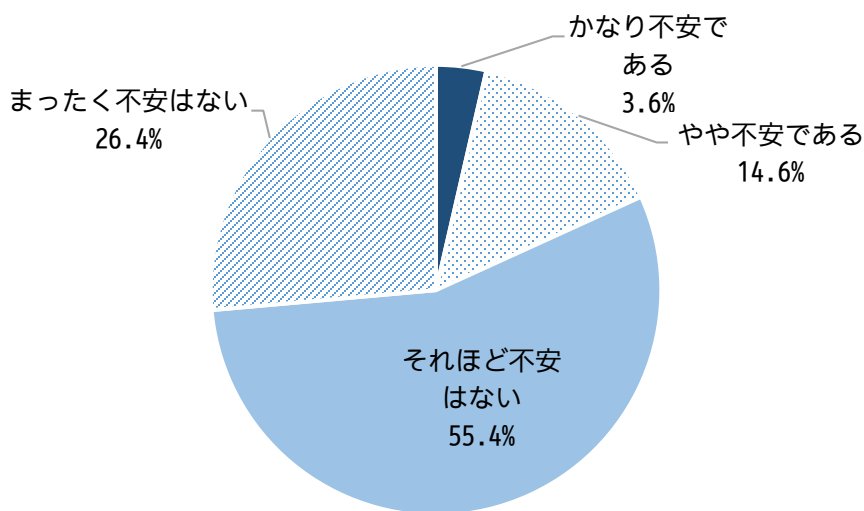
《その他の主な意見》

- ・緊急対応措置がしっかりしていること
- ・走り回っても問題ない場所
- ・徒歩圏内で行けること
- ・利用料金がかからないこと

遊び場選択において重要視している点については、「ケガをせず思い切り遊べること」や「猛暑や大雨などの天候に左右されないで遊べること（全天候型）」が多く、屋内で遊べる場所に対するニーズが高い傾向が見られた。

問8 2011年の震災に伴う福島原子力発電所の事故をきっかけにこどもの野外活動が制限されたことがありましたが、現在は放射線の影響についてどの程度不安に感じていますか？（1つ選択）

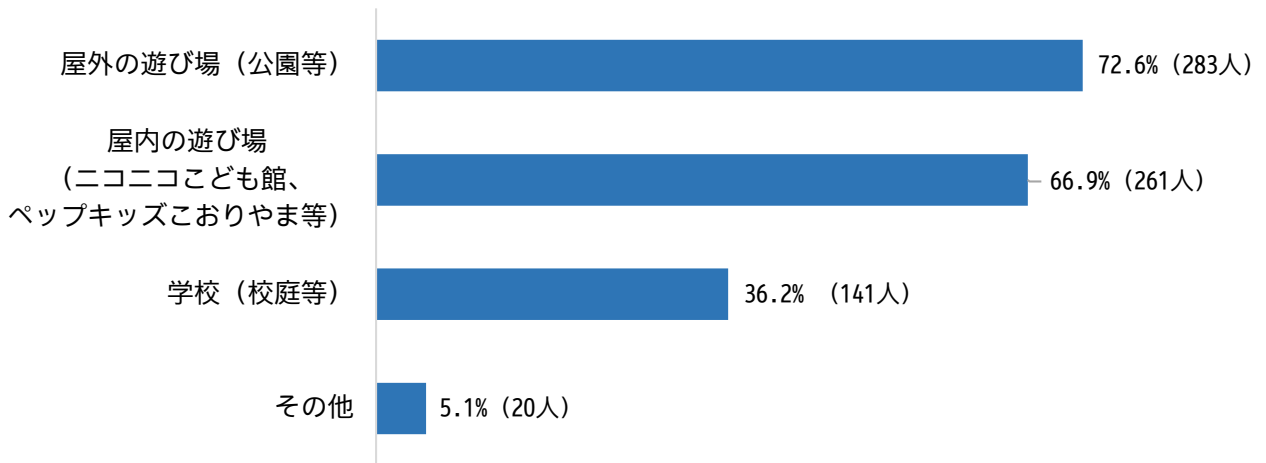
（回答者：390人）



「それほど不安がない」との回答が55.4%であり、全体的に放射線への不安は少ない傾向であるが、「かなり不安である」に3.6%、「やや不安である」に14.6%の回答があったことから、未だ放射線への不安が完全に払拭された状況には無い傾向が見られた。

問9 こどもの遊ぶ場所として本市に必要なものはどのような場所だと思いますか？
(複数回答可)

(回答者：390人)



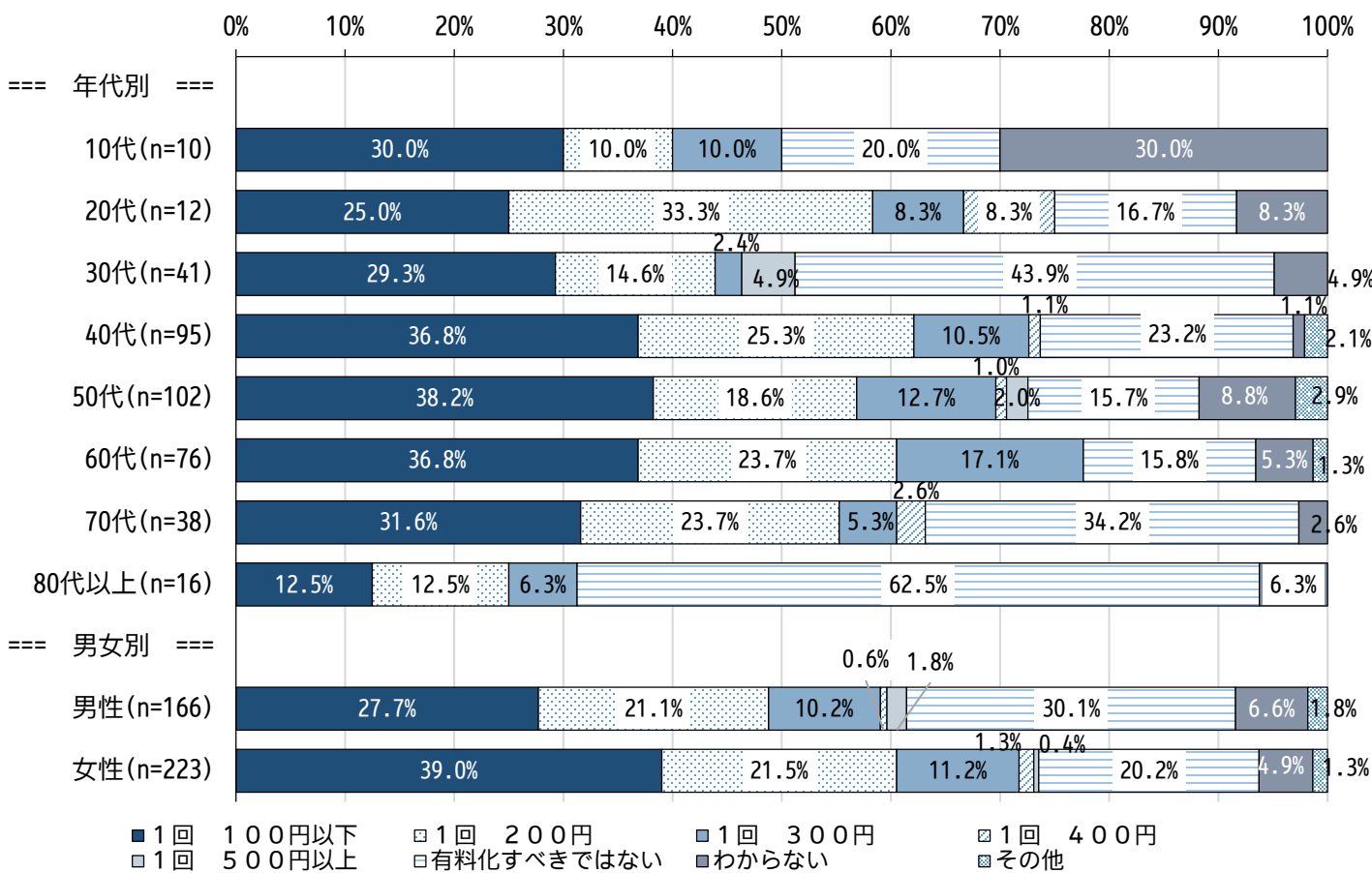
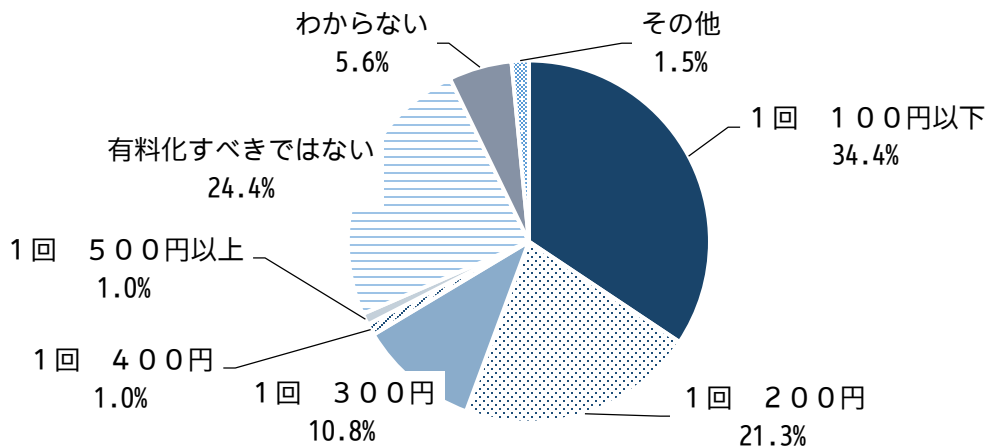
《その他の主な意見》

- ・屋内と屋外の遊び場がひと続きになり、天候や体調によって気軽に行き来できる遊び場
- ・音楽やサイエンス、地元の産業、歴史に関して参加体験できる設備
- ・遊びとともに社会的な学習も一緒にできる（障がい者や高齢者とともに過ごせる）場所。医療や介護施設などでも遊べたり過ごせる環境があると良い
- ・自然の中で思いきり遊べる場所がほしい。落ち葉のプール、どろんこ遊び、きれいな砂場など、遊んだ後に、汚れた身体を直ぐにきれいにできるような施設も欲しい

「屋外の遊び場（公園等）」が72.6%、次いで「屋内の遊び場」が66.9%であり、屋内外における遊び場のニーズが高い状況であるが、単なる遊び場ではなく、その他の意見にもあるような社会的学習等が一体となった（複合型）施設も必要と考える回答が見られた。

第3章 今後の遊び場の在り方

問10 屋内こどもの遊び場における維持費が年々増加している状況であることから、施設の規模等に応じた有料化を検討しています。こども総合支援センター（ニコニコこども館）のファミリー広場やプレイルームの遊び場部分について有料化した場合、こども1人あたりいくりにすべきだと思いますか？
※すべて2時間あたり（1つ選択）（回答者：390人）

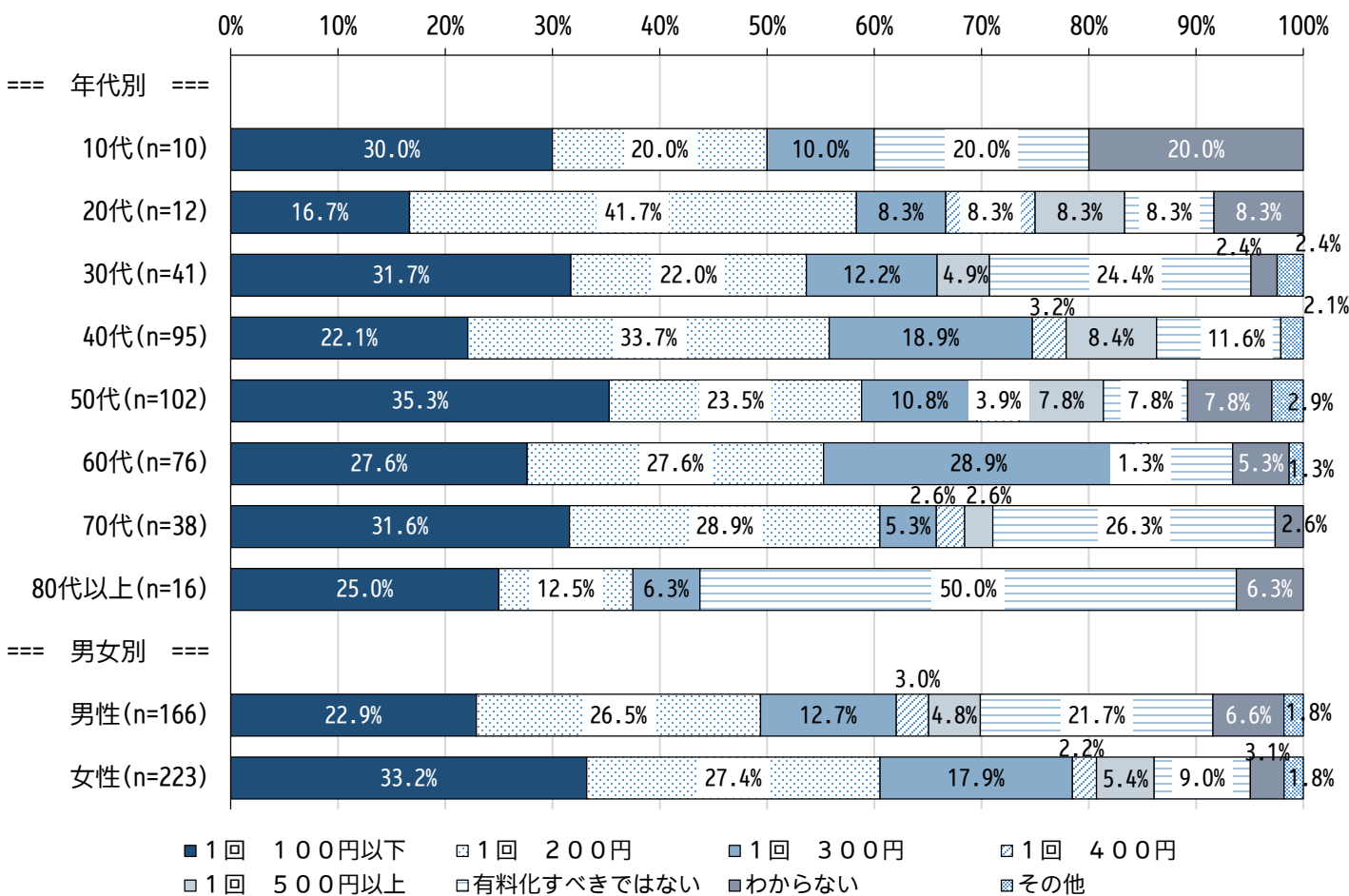
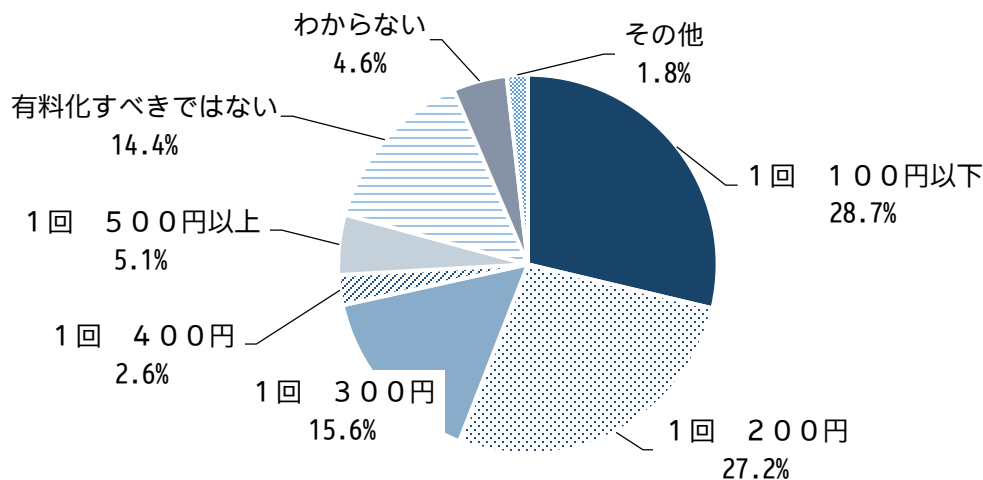


《その他の主な意見》

- ・市民、市内団体は子供1日300円、大人1日500円、駐車場無料
- ・18歳未満は無料、8歳以上は有料
- ・郡山市在住は無料、市外から来た人は1回200円

「有料化すべきでない」の回答が24.4%見られた一方で、「100円以下」が34.4%、「200円」が21.3%と少額での設定を望む回答が多く見られた。

問11 元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）について、有料化した場合、子ども1人あたりいくらにすべきだと思いますか？※すべて2時間あたり（1つ選択）
（回答者：390人）

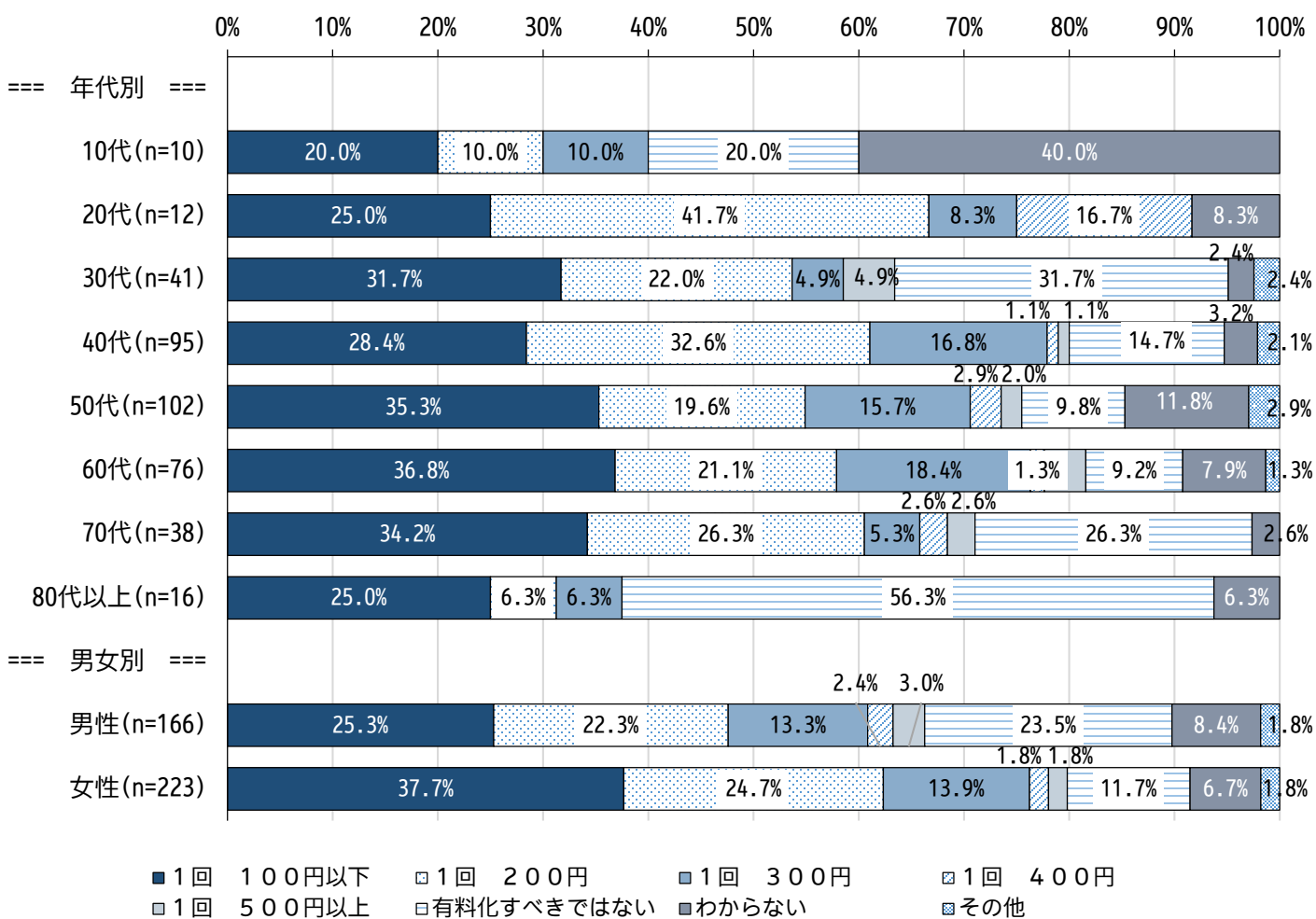
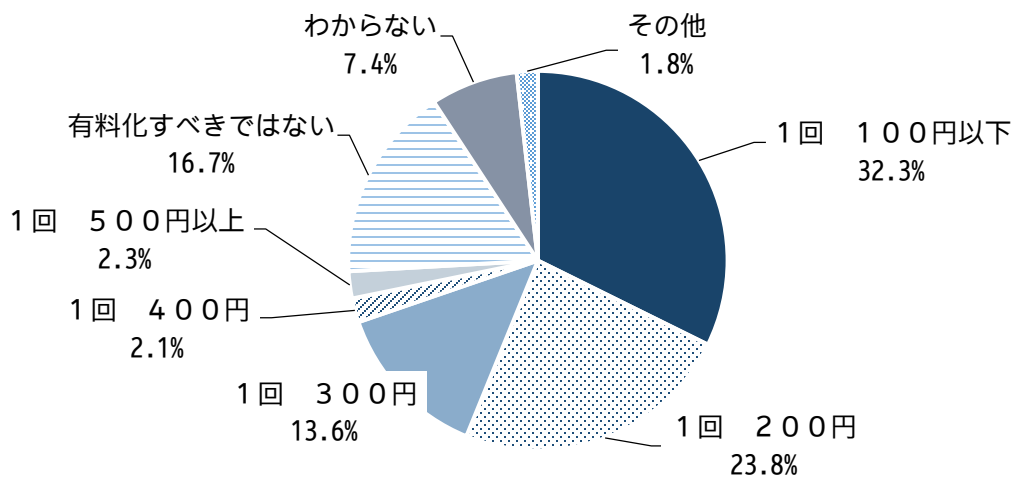


《その他の主な意見》

- ・小学生未満1日300円、以上大人1日500円
- ・支出が赤字にならない金額
- ・郡山市在住は無料、市外から来た人は1回200円
- ・18歳未満は無料、18歳以上は有料

回答の多い順に「100円以下」が28.7%、「200円」が27.2%、「300円」が15.6%となっており、子ども総合支援センター（ニコニコ子ども館）の回答と同様、少額での設定を望む傾向が見られた。

問12 カルチャーパーク屋内こどもの遊び場について、有料化した場合、子ども1人あたりいくらにすべきだと思いますか？※すべて2時間あたり（1つ選択）
（回答者：390人）



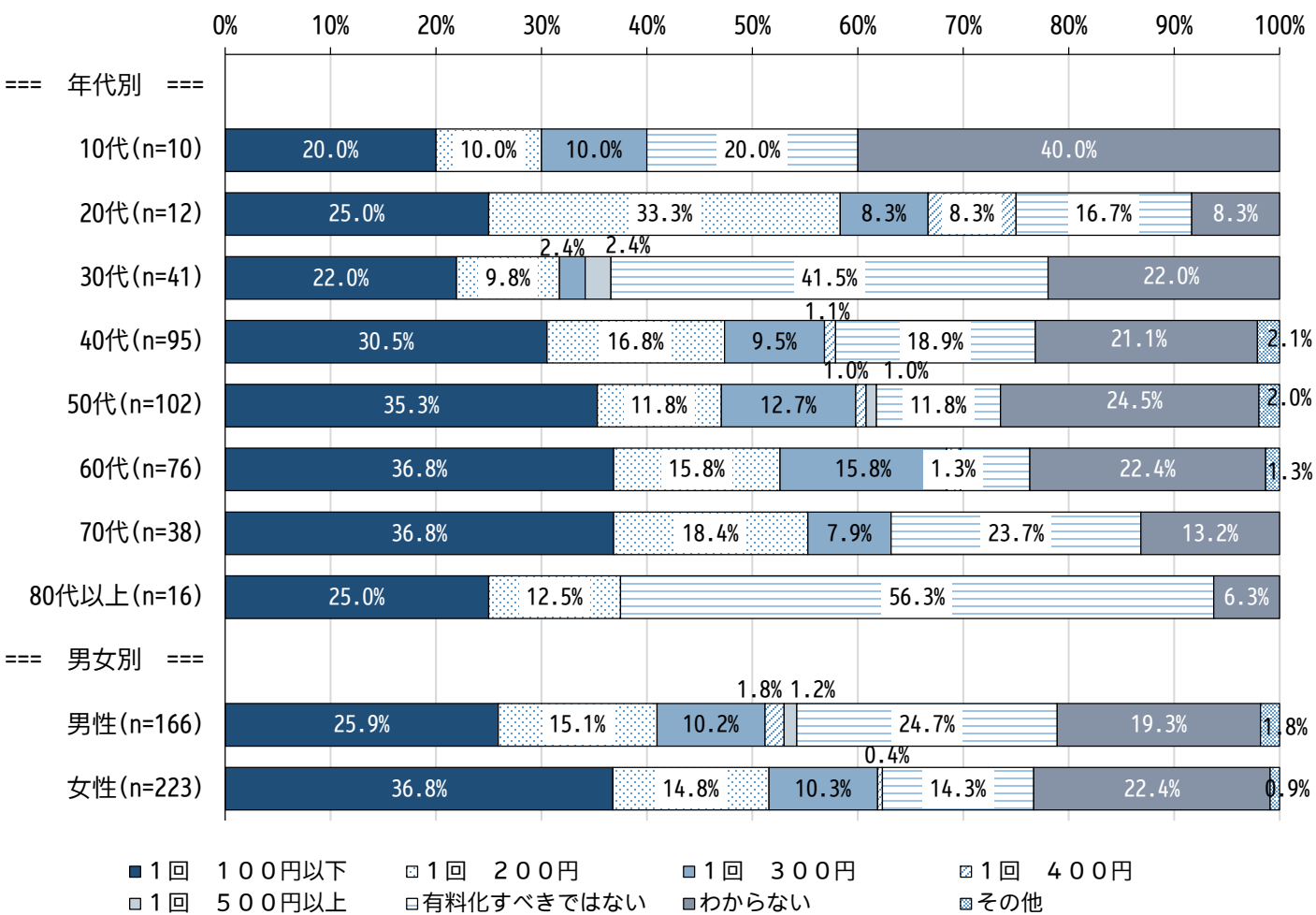
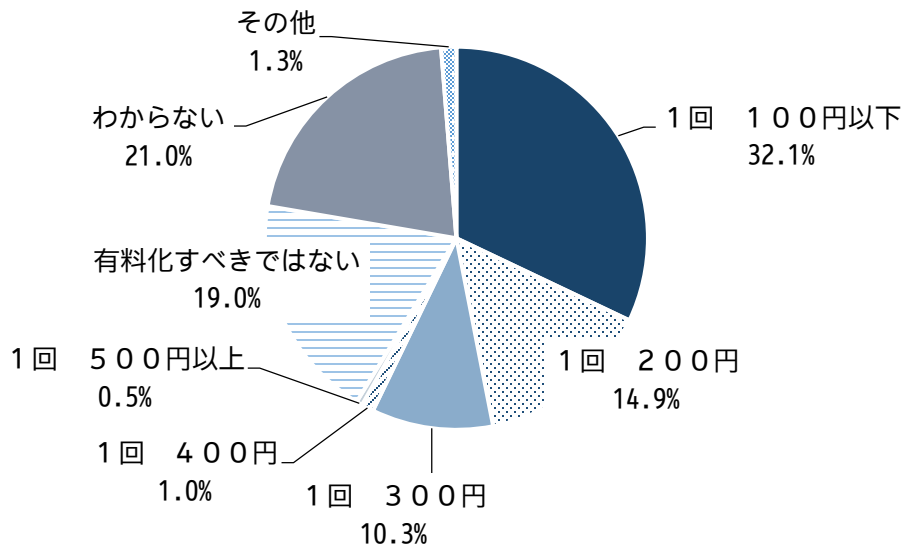
《その他の主な意見》

- ・18歳未満は無料、18歳以上は有料
- ・郡山市在住は無料、市外から来た人は1回200円

回答の多い順に「100円以下」が32.3%、「200円」が23.8%、「有料化すべきではない」が16.7%であった。こちらも少額であれば妥当とする傾向が見られた。

問13 大槻公園体験学習施設について、有料化した場合、子ども1人あたりいくらにすべきだと思いますか？※すべて2時間あたり（1つ選択）

（回答者：390人）

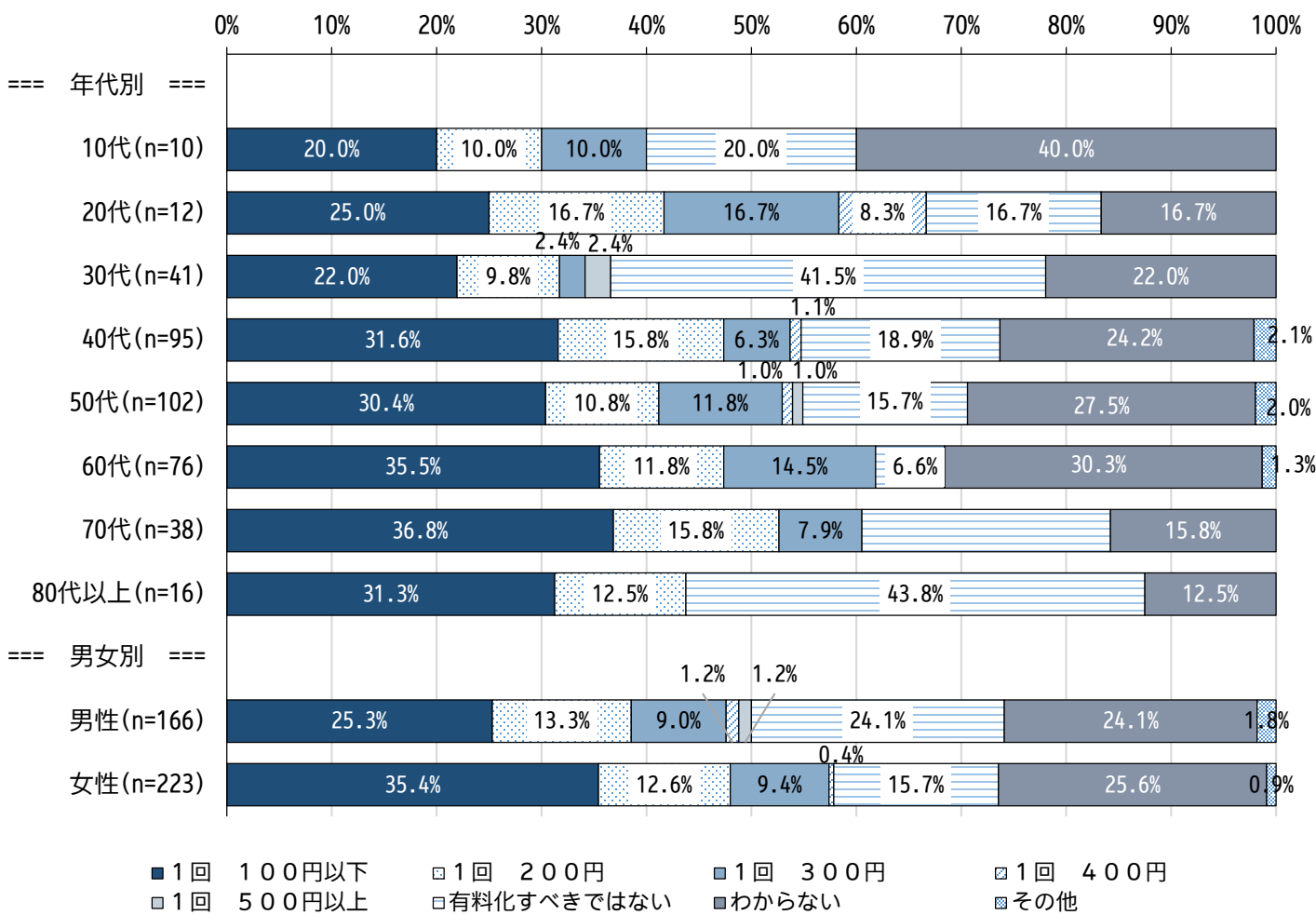
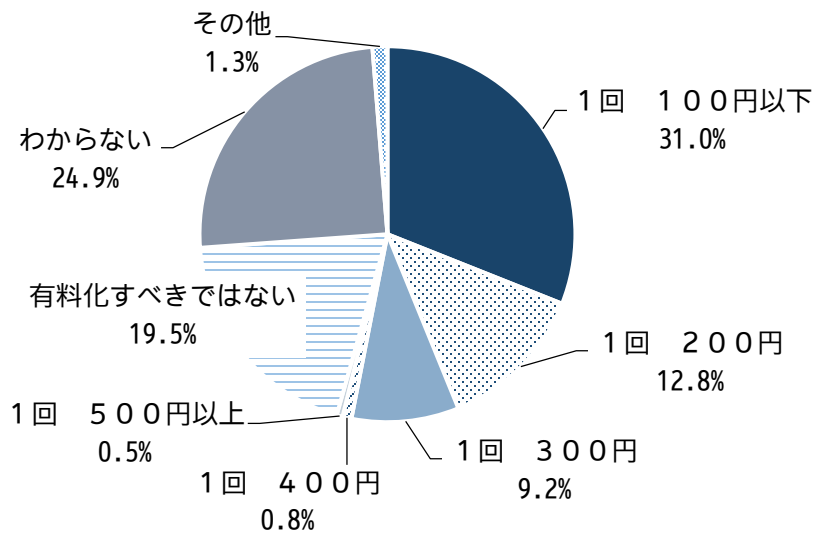


《その他の主な意見》

- ・18歳未満は無料、18歳以上は有料
- ・郡山市在住は無料、市外から来た人は1回200円

「100円以下」が32.1%、「わからない」が21.0%、「有料化すべきではない」が19.0%であり、有料化に対する判断が分かれる傾向が見られた。

問14 八山田子ども公園体験学習施設について、有料化した場合、子ども1人あたりいくらにすべきだと思いますか？※すべて2時間あたり（1つ選択）
（回答者：390人）



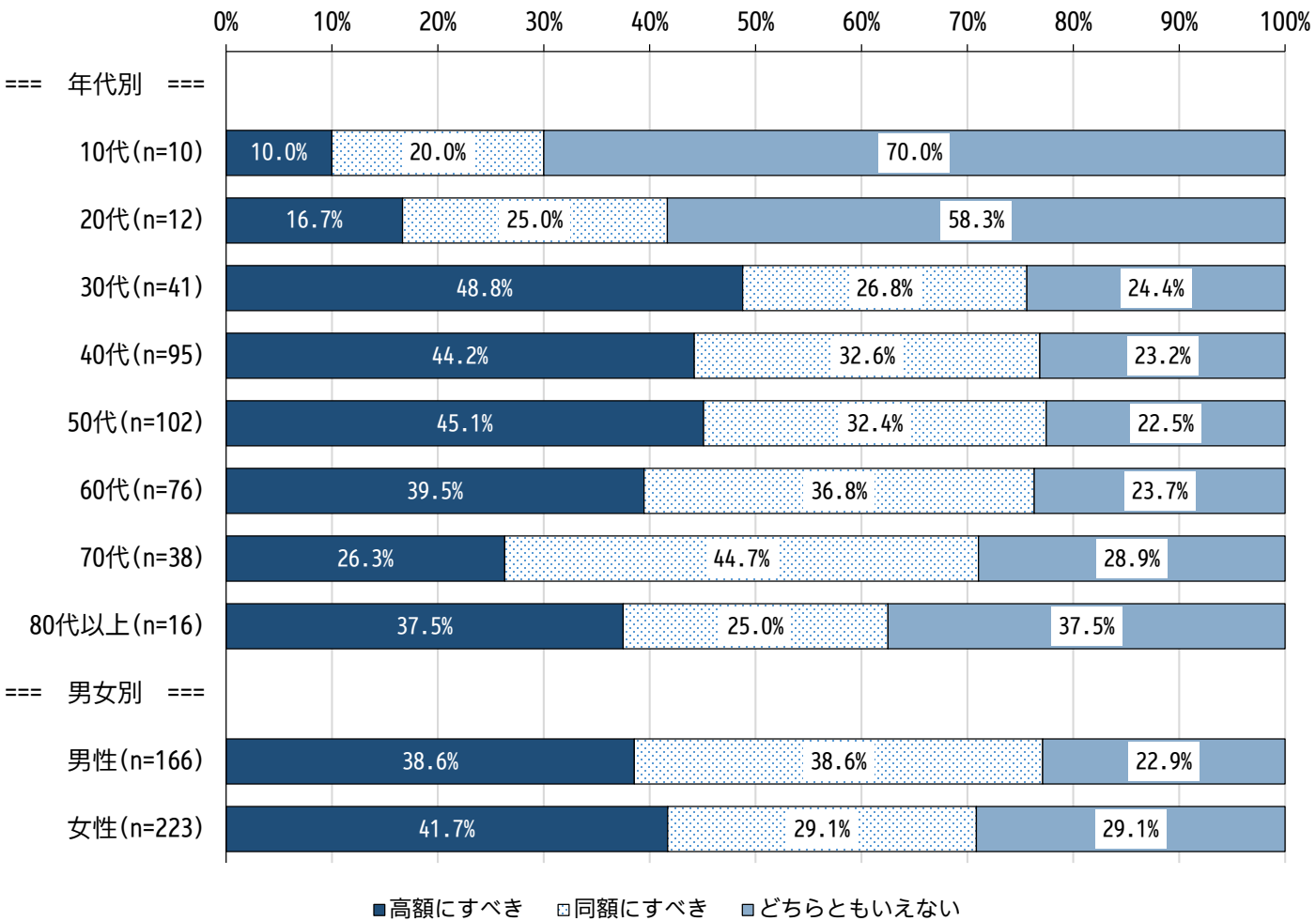
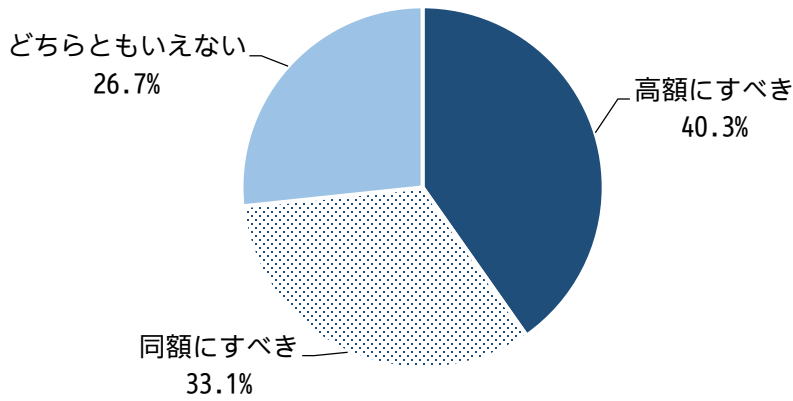
《その他の主な意見》

- ・18歳未満は無料、18歳以上は有料
- ・郡山市在住は無料、市外から来た人は1回200円

「100円以下」が31.0%、「わからない」が24.9%、「有料化すべきではない」が19.5%であり、有料化に対する判断が分かれる傾向が見られた。

問15 有料化した場合、市外在住の利用者は市内在住の利用者より高額にすべき（差を設けるべき）
だと思いませんか？（1つ選択）

（回答者：390人）



「高額にすべき」が40.3%、「同額にすべき」が33.1%、「どちらとも言えない」が26.7%であり、高額にすべきとの回答が一番多かったところではあるが、全体的には意見が分かれる傾向が見られた。

問16 問15の理由を教えてください。

※問15で「高額にすべき」または、「同額にすべき」と回答した方のみ回答（任意回答）

【「高額にすべき」の主な意見（157人の内、回答者132人）】

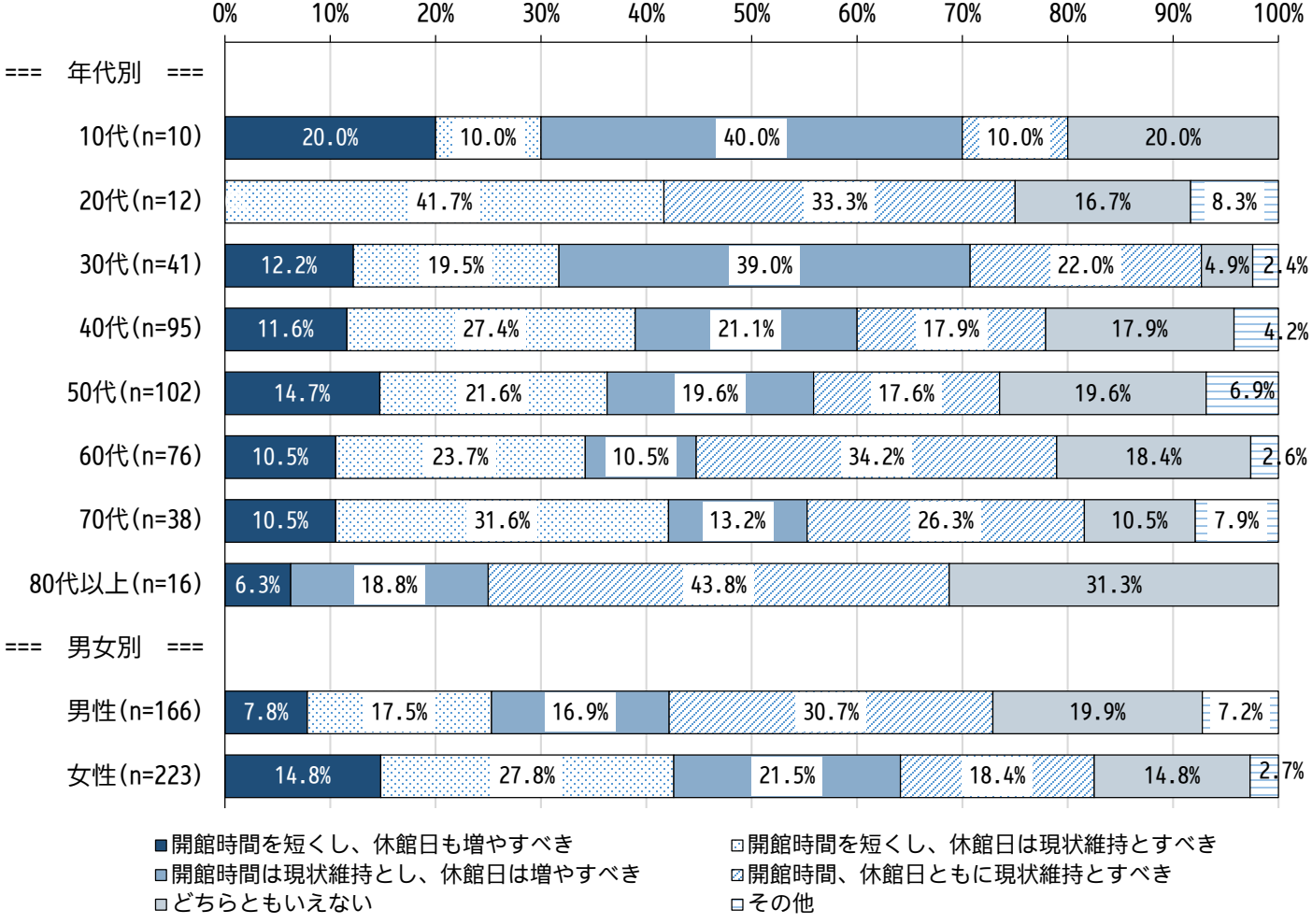
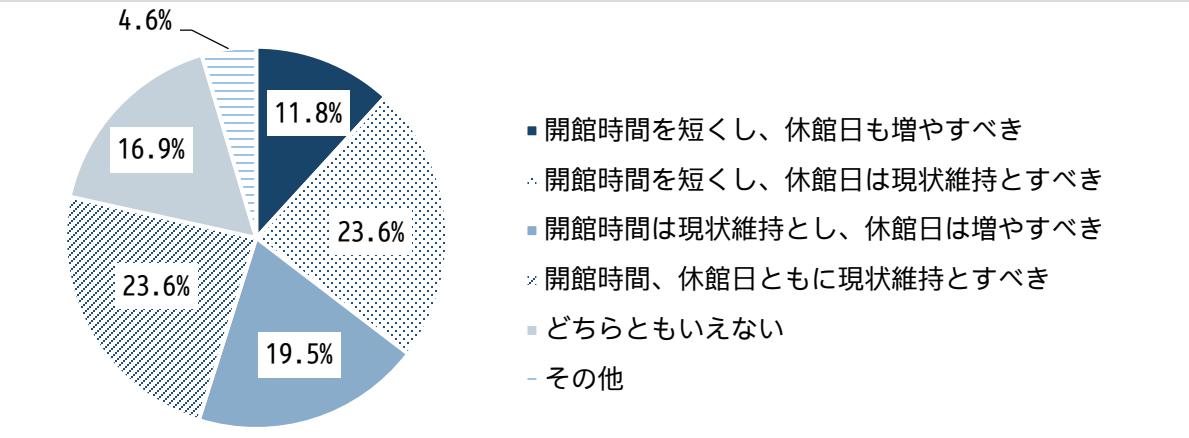
- ・市内居住者は住民税を支払っているため。（他62名）
- ・財政難で有料化するのであれば、差別化は必要。（他18名）
- ・郡山市で作った施設なので、まずは郡山市民優先に使って欲しい。（他31名）
- ・市外の利用者で混むのを避けるべき。優先化は必要だと思う。（他5名）

【「同額にすべき」の主な意見（129人の内、回答者99人）】

- ・どこの居住者であっても差をつけるべきではない。（他12名）
- ・こどもたちの生育を第一に考え同金額での施設料で。（他24名）
- ・料金を取る為の人員コスト、事務コストがかかるので、複雑にするとコストに見合わないと思う。（他10名）
- ・実家や親せきが郡山にいて利用するのだと思うので差を付けなくて良い。（他11名）
- ・郡山市へ来て頂き市内の商業施設を利用して頂きたいから。（他7名）

「高額にすべき」の理由については、市内居住者は住民税を支払っているため使用上の優先や使用料での差別化があって良いという回答が見られ、「同額にすべき」の理由については、（市内外を問わず）こどもたちの生育を第一に考えるべきとの意見や、郡山市へ来てもらうことで他の商業施設の利用（経済効果）が図られるとの回答が見られた。

問17 屋内こどもの遊び場は、なるべく多くの方に利用していただけるよう、開館時間や休館日を設定しているところですが、昨今の光熱費の高騰や人口減少から、見直しを検討しています。開館時間や休館日の変更についてはどう思いますか？（1つ選択）（回答者：390人）



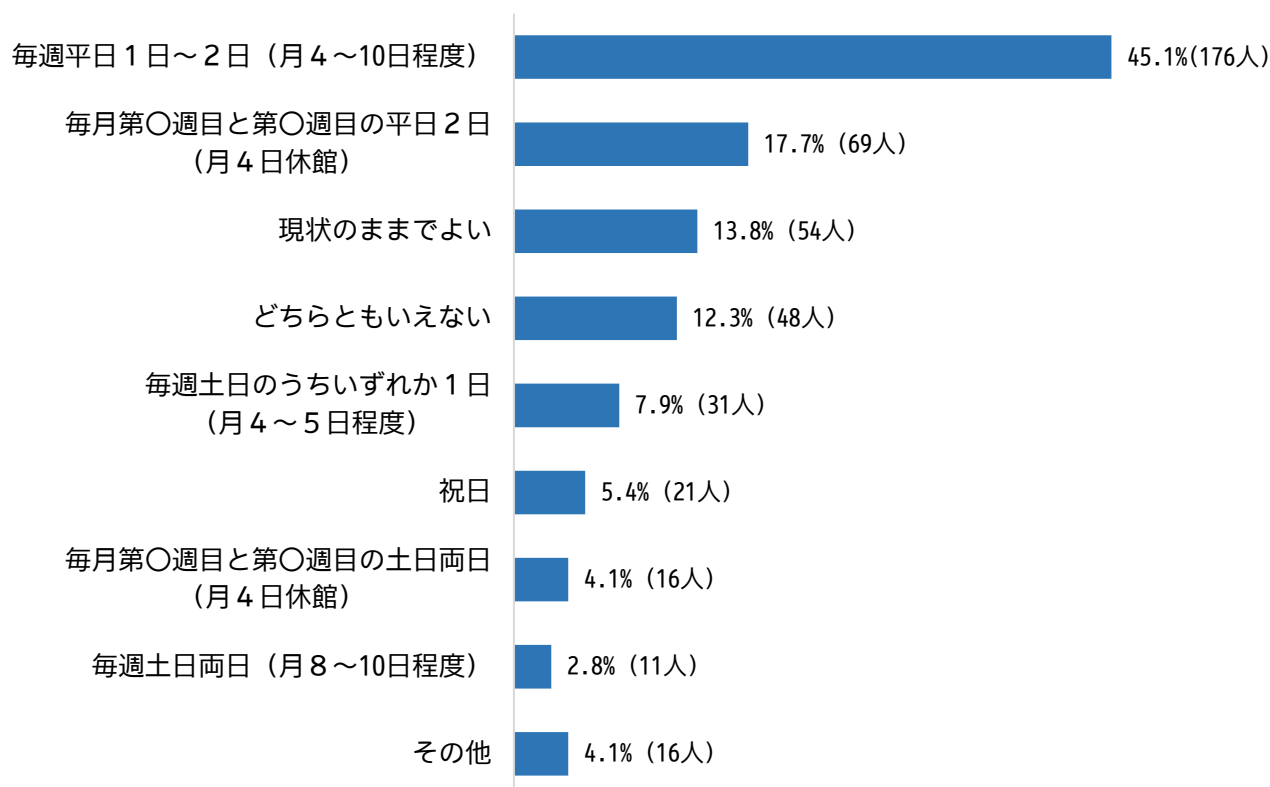
《その他の主な意見》

- ・春・夏・冬休み中は時間を長くして、それ以外は休館日を増やす
- ・過去の利用状況を参考に、柔軟な時間設定が望ましい(土日祝日は開館が良い)
- ・公募して管理する団体に入ってもらおうなど市だけで（管理を）行わない方法も考えた方が良い
- ・酷暑や降雪等により、子どもたちが体を動かすのに適していない環境のときに、せっかく施設があるのに使えないのではもったいない。市民に理解していただけるような正直な案内をしながら、必要な負担を市民にもしてもらい、施設の利用制限が増えないようにしたほうがよいのでは。

「開館時間を短くし、休館日は現状維持」及び「開館時間、休館日ともに現状維持」と回答した方がそれぞれ23.6%であり、現在の在り方に対する変更はあまり望まない傾向が見られた。

問18 休館日の設定について、休館日はいつにすべきだと思いますか？（複数回答可）

（回答者：390人）

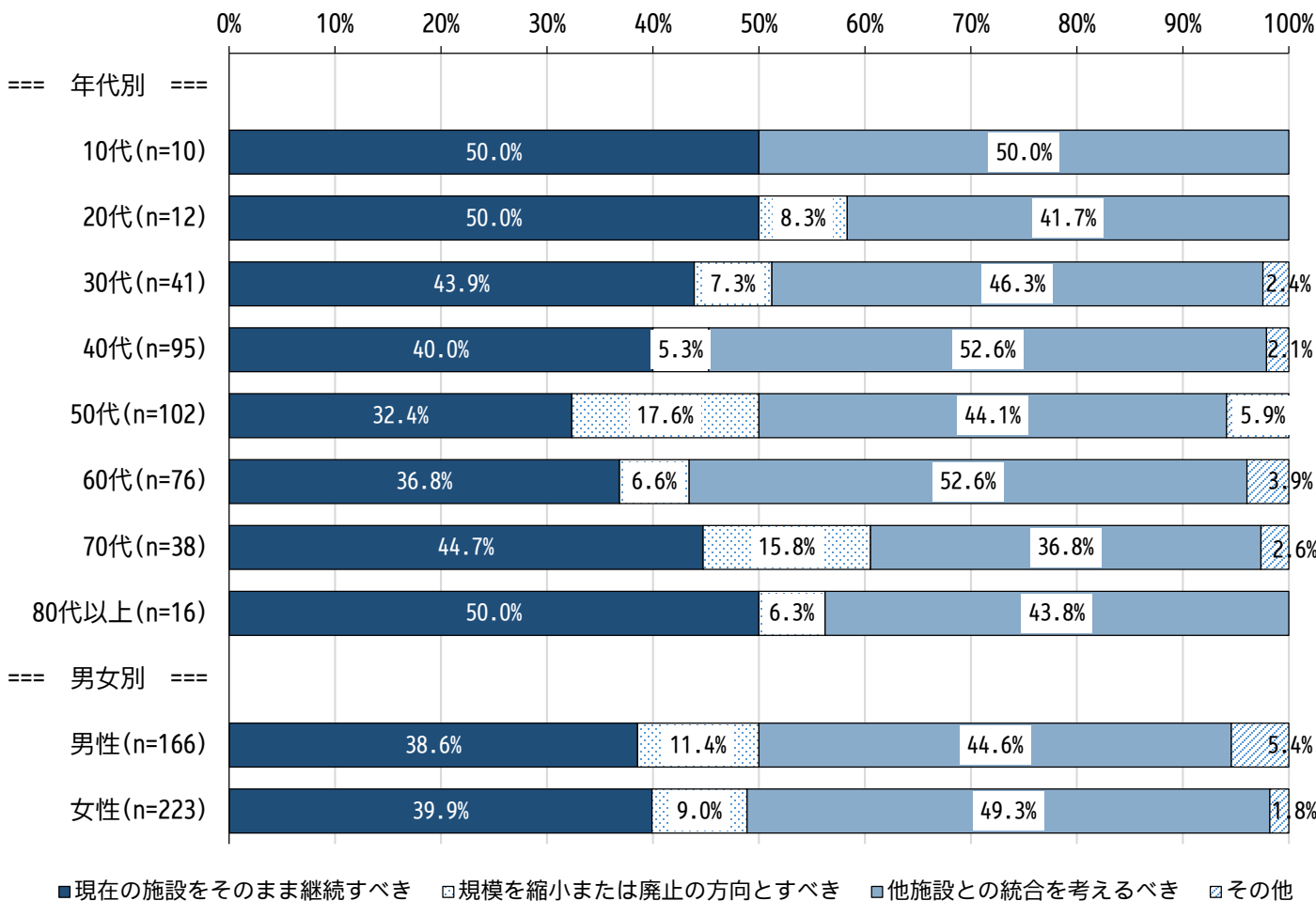
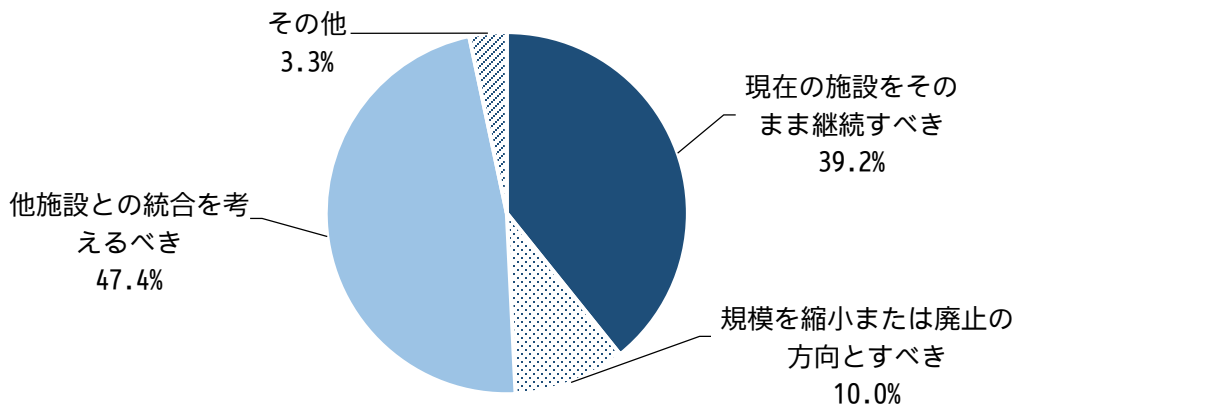


《その他の主な意見》

- ・統計的に利用者が少ない平日は休日にしても良いと思う
- ・利用状況のデータをもとに、利用者の少ない平日（週1日程度）。季節ごとに見直す。データの活用が大事。
- ・平日にしか行けない人、土日にしか行けない人それぞれいると思うので、混ぜ合わせた休館日
- ・毎週何曜日と隔週の続く曜日、計6日
- ・各遊び場で休みをずらす

休館日の設定については、「毎週平日1日～2日（月4～10日程度）」との回答が45.1%と最も多かった。

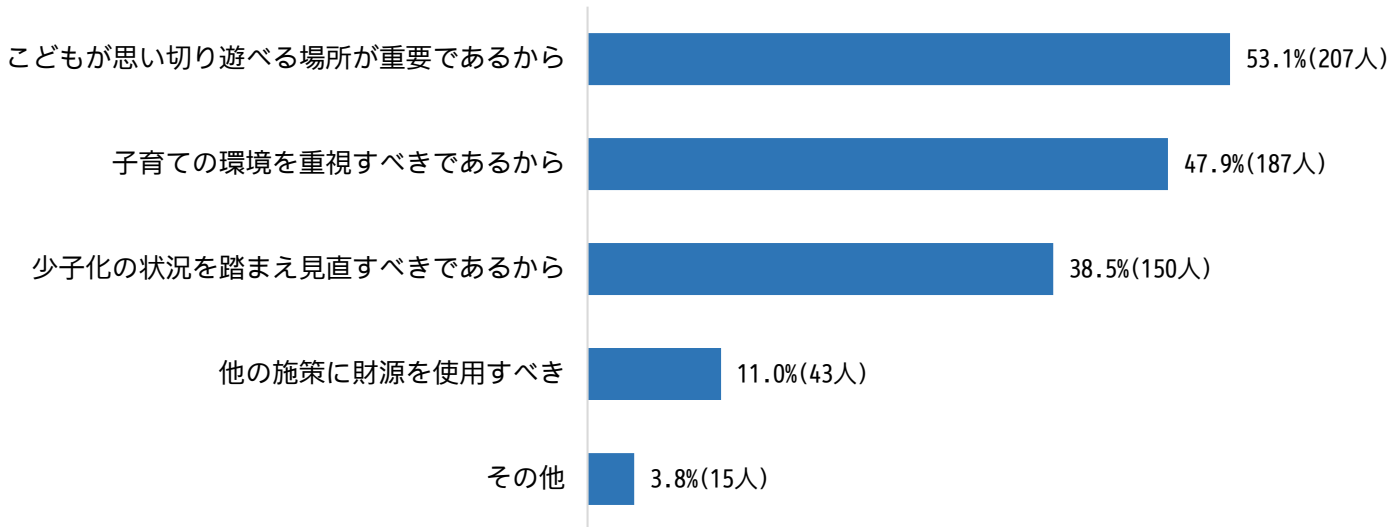
問19 今後、超少子高齢化の進展による人口減少や公共施設の改修費用の不足により、公共施設の統廃合（統合又は廃止）が必要となってきますが、屋内こどもの遊び場全体として今後どのようにしていくべきだと思いますか？（1つ選択）
 （回答者：390人）



《その他の主な意見》

- ・少子高齢化対策の一環として、逆に子供の遊び場は増やすべき
- ・高齢者や障がい者の方の活動の場としてこども施設含め公共施設の運営を活かせるのではないかな。そのような取り組みを進めている団体は数多くあるように思う。アシストパークと連携して活動すれば解決するような気がする。
- ・ビッグアイなど空きのある場所に施設移動したり、カルチャーパークの近くに移動させて郊外型の施設にするなど方法はたくさんあるので、話し合いの場を作れば良いと思う。
- ・利用状況を広報などで周知し、利用の少ない施設は多目的施設として活用できないか検討すべき

「他施設との統合を考えるべき」との回答が47.4%と最も多く、「現在の施設をそのまま継続すべき」との回答が次いで39.2%であった。施設の場所は統合又は継続とし、機能を確保していくべきとする傾向が見られた。



《その他の主な意見》

「現在の施設をそのまま継続すべき」を選択した人の意見

- 施設を壊すのも費用が掛かるため、増やさず開園日時を減らしたり使用面積を変えた方が良い
- 子育て環境を充実させないと、人口流出に繋がるから。人口流出が続くと市の衰退に繋がる
- 若い人が生活するのを便利にすることが、他の市町村から人を集める方法となるから

「規模を縮小または廃止の方向とすべき」を選択した人の意見

- 少子化や共働きの世帯が増え昼間に子供を遊ばせる家族が減っているのではないかと

「他施設との統合を考えるべき（空き店舗、空き教室の利用等）」を選択した人の意見

- 小さな場所でも、子どもが自分で行って帰れるような場所がたくさんあると、近隣トラブル防止の観点からも子育て支援につながると思う
- 空き店舗活用では途中で施設の場所を変更しなければならないのであれば、有料化なども取り入れながらも現在の施設の維持をした方が個人的には安心して利用できると感じる

「その他」を選択した人の意見

- 安心安全かつ子供の育成のため有用な市内各エリア内にコミュニティを形成し、コンテンツの一つとして遊び場を考えてはどうか
- 子どもだけの利用を考えるのではなく、市民全体が利用できる弾力的運営を検討することも大事だと思う

「こどもが思い切り遊べる場所が必要であるから」の回答が53.1%と最も多く、「子育ての環境を重視すべきであるから」の回答が47.9%と次いで多い状況であり、遊び場のニーズの高さが分かる回答が見られた。

問21 屋内こどもの遊び場について、課題やご意見、ご要望がありましたらご自由にお書きください。

(回答者：147人)

屋内こどもの遊び場について

少子化の問題を考えるのであれば子育て支援の一環として天候に左右されない屋内こどもの遊び場は共働き家族には必要な場所だと思います。(70代・女性)

こどもの遊び場は子どもだけでなく、ママたちの場所でもあると思う。子育てに孤独感を感じないためにも、同じ子育て中のママ同士でちょっとしたものであってもコミュニケーションをとる場所としても大事だと思う。子どもが小さい時に利用していたが、施設の担当の方が積極的に声をかけてくれてとても嬉しかったのを覚えています。日中赤ちゃんと二人きりだと大人と会話する時間がほとんどないので。(40代・女性)

孫を連れて、月3回位はペップキッズを利用しています。公園だと、あまりお友達もいないし雨天を気にしますが、ペップキッズだと、必ずお友達がいたり、いなくてもその場で鬼ごっこをしたりと遊びます。昔なかった遊び場ですが、年代問わず育てる側にとって便利な施設だと思いますので、まだまだ継続してほしいです。(60代・女性)

ペップキッズはwebで申し込みできるようにしてもらいたいです。整理券方式は朝並ばなくてはならないので大変です。(40代・男性)

少子化進んでるし現状の施設は維持したまま老朽化してきたら廃止したり、が良いと思う。廃止後に広場にしても良いと思う。(30代・男性)

屋内こどものあそび場の衛生管理とみまもりカメラなどで安全性も高めること。子育て支援事業として、遊んでいるこどもの姿を観察しながら育児相談も出来る別室もあるといいかなと思います。(50代・女性)

環境変化で、昨今猛暑が続き、熱中症警戒アラートが出た日には子供を屋外に出せません。今後も長く似たような環境となると思います。特に夏期休暇などの長期休み、気軽に遊びに行ける施設が少ないことは、親も子もストレスが溜まります。子供の肥満や成長発達も不安です。施設の統合で遊び場が減る・休館日が増えていくと、郡山市はどんどん子育てしにくい環境となると思います。他の政策で予算を削っても、子育て環境は維持してほしいです。(30代・女性)

郡山が誇れる遊び場だと思っています。孫たちが帰ってきたら必ず行きます。他は有料だったりで(こういう施設は)無いようです。ぜひ維持して頂きたい。(60代・女性)

放射線影響も含めて、子供たちが安心して成長できるよう施設や支援を充実させてもらいたい。(60代・男性)

いつも市政のためにありがとうございます。生活困窮者が増えてきているように感じ、子供にしわ寄せが来ているような気がします。今後、猛暑が続く事も考えられ、避難場所として子供のための施設は重要になってくると思います。施設の有料化や開業日を減らす事で、更に設備を使う人が減ってしまうと思うし、魅力のない市には子育て世代は集まらないと思います。今は大変だと思いますが、未来に向けて子育て世代が住みたくなるような政策が必要だと思います。集客のために、相談所を設けるとか、飲食を充実させたり、キッチンカーなどを呼んで、マルシェ等開催して集客するなど、行きたくなるような場所になってほしいです。(50代・女性)

屋内ですと、天気等に左右されないの、利用しやすいと思います。しかし、換気、消毒等はしていると思いますが、どうしても感染リスクは避けられません。人数制限とか、予約制で定員制も一つの解決策だと思います。(60代・男性)

子どもたちがいつもたくさんお世話になっています。天気が悪い時に、でもたくさん体を動かしたい子どもたちは、ペップキッズが大好きです。ニコニコこども館も、何度もお世話になりましたが、小学生になると体も大きくなるので、最近はおっぱらペップキッズに行っています。親としては、雨が降っていたり、下に小さい子がいると、公園を活用するのもなかなか難しく、屋内の遊び場はとてめありがたいです。少子化でこどもたちの数は少なくなっていますが、統廃合したり、企業からのスポンサーを受けての活動を行う、クラウドファンディングで補修や新規遊具の購入をする、両者への有料負担などでどうにか存続して欲しいです。しかし、有料化すると利用のハードルは上がるな、と思います。ニコニコこども館は、有料化せず困っているお母さんお父さんたちが、気軽に相談に来てこどもを遊ばせることができるように現状を維持して欲しいと思います。(30代・女性)

屋内こどもの遊び場は、東日本大震災での原発事故により屋外で遊べなくなった子どもの為に作られたと思うので、除染して空間放射線量も下がって不安もあまりなくなった昨今は、屋内よりも屋外で思い切り遊べる、開成山公園のような大きな公園が沢山あった方が良いと感じるので、屋内の遊び場は利用者数が少ない場所は閉鎖をしたり、統合したら良いのではないかと感じます。(40代・女性)

交通（移動手段）について

市内に住んでいても自家用車を持っていない知り合いはいつも困っていると言っています。カルチャーパークや西部公園など広いところには経済的なこともありなかなか行けないとの話を聞きました。子供は国の宝、国民皆で育てるもの。せめて自転車で行ける充実した遊び場は無くさないでほしいとの声です。一家に一台の自家用車を持つのは当然ではないです。(60代・女性)

公共交通機関で利用しやすい場所に有る事を望みます。(60代・女性)

屋内子供の遊び場は維持管理費も高むと思いますので、必要以上の大きさや数があってはならないだろうし、集約した場合は、そこへの移動手段（交通計画）も大切だろうと思います。少子高齢化のスピードに合わせた遊び場の集約化の変遷がイメージできればと思います。(60代・男性)

職員に対する意見

ニコニコこども館にはすごくお世話になりました。いつも育児の相談にのってくださる先生方がいるので、助かりました。できれば育児経験のある先生方を増やした方がいいと思います。ペップキッズのように遊ぶのがメインだと年代問わずに職員さんがいればいいのですが、ニコニコこども館に関しては育児経験のある方が多いとうれしいです。(40代・女性)

スマホばかり見ていたり、ママ友とおしゃべりに夢中になって保護者が子どもを放置している方も多くいるのでスタッフからの声掛けも必要かなと思います。(40代・女性)

休館日について

休館日は各施設毎に被らないようにずらして設定し、必ずどこかは空いているという形が望ましいと思います。一斉に同じ曜日が休館日だと、利用したくても親の休日が重なってしまう人はずっと利用できず、子どもを遊びに連れて行けない。利用機会を増やせるように設定してほしい。(30代・男性)

少子化により入場人数減少の観点から混雑も減り、一人あたりの空間が保たれるはず。時間短縮、休業日を増やすことは妥当だと考える。(40代・女性)

休館日を土日祝日のみにしてしまうと、カレンダー通りの休みの親が困る。かと言って、平日のみ休みにしてしまうと、土日に働いている親が困る。そのため、曜日関係なく10日と20日というように、日にちで休館日を設けると良いと思う。(40代・女性)

震災後、ペップキッズができたときは、子どもも幼稚園と小学生だったので、よく利用して助かっていました。今はその時ほど行かなくなりましたが、年に数回行く程度です。維持費がかかる場合は、有料化にはせず、休みを増やしてほしいのではないかと感じます。(40代・女性)

子供が小さいころはよく利用しました。ペップキッズくらい大きいところであれば、多少、利用料を取っても良いのではないかと思います。人口流出、人口減少対策として、郡山市が近隣市町村から魅力のある都市と思ってもらえるのであれば、多少のコストがかかっても施設を充実させても良いと思います。（50代・男性）

原発事故後、子育てをする私たちには県内、市内の屋内遊び場の充実が本当にありがたかったです。当時赤ちゃんだった娘はすっかりお姉さんになり、今は弟妹が単純にとっても楽しい遊び場だと思って遊んでいます。今は放射線のこともあまり気にしすぎず過ごしていますが、たくさん子どもたちが求めている遊び場だと思いますので、なんとか維持していただけたら嬉しいです。有料になることは施設の維持を考えると仕方ないことではあると思いますが、我が家は子どもが3人いますのであまり高額ですと頻繁に遊びに行くことができなくなります。（1回300円としても×3だとほぼ1,000円）（30代・女性）

遊び場が資金不足でなくなるよりは、有料化にし、存続させてほしい。（50代・女性）

子どもは5年生になり、施設利用も減りましたが幼児期にはかなりの頻度で（平日は妻と子が）利用させて頂きました。設備の充実度や混雑具合（人気）がまちまちなので施設によって、有料化もやむなしだと思います。税金で賄われているとはいえ、自宅から施設までの距離や自家用車の有無によって、その恩恵に差が出ていると思います。利用料は数10円程度なら助かりますが、100円、200円以上なら施設内の自販機が使えるメダルとかももらえると抵抗感が少ないかもしれません。（50代・男性）

子どもの人数が増えるのなら維持することが望ましいが、現状は厳しいと思います。ある程度、今ある屋内子どもの遊び場も閉鎖する必要性はあるのではないかと思います。震災の年に生まれた娘をペップキッズによく連れて行きました。その時は放射線の線量が気になっていたが、今は色々高騰してるので、ある程度施設利用料金は徴収して良いと思います。今まで無料で使えたのはありがたかったけど、時代の流れと共に変えて行く事も重要です。（50代・女性）

費用についてですが、利用費となると行きにくいけど、施設管理費と言われると出さないといけないなと感じるので利用費の名目を考えた方がいいと思います。（30代・女性）

屋外遊び場について

子どもの数が減ってるとはいえ、室内で体を動かして思いきり遊べる施設が少ないと思います。体育館等にそのような一室があっても良かったのではと思いました。（60代・女性）

支援センターなども含め市内に沢山あるが、思いっきり走れたりボールを蹴ったり、自転車に乗れる公園や施設が少ない。昔は放課後や休日に校庭で自由に遊べたが、今は入れないし解放してないと聞いています。学校で遊べたら、外遊びをする子どもが増えると思います。（60代・女性）

屋内に拘らず、そろそろ屋外での遊びもしっかりとやらせる環境を作るべきかと思います。また、親と子で楽しめる場所、また普通の市民も活用できる、楽しめる場所を増設すべき。動物園や、御霊櫃峠などの景観俯瞰地に展望デッキや展望タワーなど、郡山を感じられる、学べるような施設、などを整備すべき。郡山はこうした面で他自治体よりはるかに遅れています。（50代・男性）

公園をもう専門家の方々が定期的に視察、観察して、のんびりピクニックや本を読む日差しを浴び笑顔溢れる空間に再建してほしい。遊具、施設の色を期間を決めて郡山カラーでペイントしてはどうでしょうか？（70代・女性）

遊具の充実も必要だが、手軽に利用できるアウトドア的施設の充実も図って頂きたい。（キャンプ場など）（60代・男性）

子どもを連れて行くのは大変なので距離を考慮する必要がある。高齢者のデイサービスや運動施設と共存できないだろうか。感染の関係から動線を考慮し、隣接するなどできると良いと思う。

(60代・女性)

こどもの遊び場と高齢者とのコラボ、一緒に遊ぶ環境を考えてほしい。(60代・男性)

小規模で良いので、小学校区に安全な子どもの居場所が複数あると良いです。(50代・男性)

体験学習のできる施設が増えるといいと思う。子供の将来に繋がるような体験ができる所。

(40代・女性)

今後、市民との関わりについて

こどもだけと決めず、高齢者福祉と一緒に考えると、工夫できる事は多い。こども館は、ボランティアで使用しているが、ボランティア団体の荷物を置ける場所が無かったりする。施設を考えるなら、まずどの様な施設にしたいか、どんな人に手伝って欲しいかなど、色々な年代に柔軟にアイデアを募って、そこから考えた方が良いと思う。高校生や大学生など若い世代の考えを取り入れていくべきだと思う。

(50代・女性)

平日も土日も子どもがおもいきり走り回れること、一緒に付き添う父兄も休めるスペース、一部のみ有料化するなど、検討することは多々あると思います。我々、大人へのアンケートも大事だが、実際に使う子どもたちにもアンケートを取ってみるのも良いと思われる。(40代・男性)

私にも小学生2人おります。休日はペップキッズ、八山田子供園、カルチャーパークなどを利用しています。自宅近くにあるのでありがたいと思っています。一方、施設老朽化や財源不足の問題もあるので、施設数の削減も進めるべき課題です。利用者全員が、縮小について納得する事は難しいと思いますが、丁寧な説明があれば私は納得します。早めの計画や説明が大事だと思いました。

(40代・男性)

1, 現状の問題のデータを示し、多くの市民の意見を吸い上げてほしい。 2, 場合によっては、市民の検討会など設置してほしい。 3, シルバーセンターの活用や予約が取りにくい公民館活動などの両立など、「子ども」に固定せず、多方面から知恵を出して行ってほしい。(70代・男性)

私は子供が3人居ます。原発事故、コロナの真ただ中で子育てをしました。一番悩んで、心配したのが子供の遊び場の確保です。思い切り外で走ったり、体育館でボール遊びをしたりという当たり前のことが十分にできなかった世代です。放射線を気にして外に居る時間を制限する。感染を気にしてマスクをする。お友達とも距離を取る。今の大人たちが子供の時には経験していないストレスが今の子供達にはのしかかっています。新たな常識を持ち、柔軟な対応を大人がすることで、子供たちの健やかな成長を推し進めるよう官民一体となった取り組みが必要だと思っています。施設利用料徴収という形ではなく、開成山公園のような「民」の力と融合した取り組みで管理費の部分を上手く補えるアイデアが必要です。(40代・男性)